

じやりみち

…仮設支援情報…



第20号 発行日 1996. 6. 20

阪神・淡路大震災

「仮設」支援NGO連絡会

〒653 神戸市長田区御蔵通5-5

TEL: 078-578-6921 / FAX: 078-578-6923

E-mail: ngoteam@mb.osaka.infoweb.or.jp

口座番号 01180-6-68556 (郵便振替)

決闘者屋のお知らせ

早くも6月半ばをすぎてしまいました。これからまた暑くなります。体に気を付けて下さいね。さて、次回全体会のお知らせです。今回は総会を行う予定だったのですが、代表の村井がいなくてもあり、もう一度全体会を行います。ご了承下さい。

6月26日(水) 18:30~20:00 場所はSVAです。

(長田区役所がとれませんでした。ごめんねさい)

寺子屋の報告

前回の寺子屋は、いつも司会をする市川さんを1回お休みにし、司会も形式も変えて行いました。まず最初にゲームで今の自分たちの活動のあり方を振り返れたらという意味あいから「人間知恵の輪」というゲームをしました。ぐちゃぐちゃに絡まった手をほどいて輪にしていくというゲームなのですが、1人の人が外から見て解いていく方法、みんなで声を出しながら一緒に解いていく方法と様々なやり方があり、輪もほどいてみないと幾つあるのかもわからないのですが、この状態や方法をそのまま自分たちの活動に当てはめて考え、今の活動を振り返ってみるのです。出てきた感想にも「みんなで声を出したほうがはやり」、「指示されることにイライラした」、「輪はひとつだと思っていたのに実はほどこけると2つだった」と言ったようにいろいろとこれからどうやっていけばいいのかといったようなヒントが隠れていたように思えます。分かり切っていることでも常に頭に入れておくことはやはり大切ではないかな、と思いました。

その後に、3グループに分かれ、「今の全体会の進め方、雰囲気について」というテーマでお茶を飲みながら、畳の上で話をしました。その中で出てきた声としては「今まで少し受け身になりすぎていた」、「もう少し親睦の深められる会に(信頼関係を築きたい)」、「情報交換という大きな意味のある会だから、きちんと続け続けていきたい」といったものができました。最近少し会則等難しい課題が続いたためか、沈みがちになっていた会もずいぶん明るい感じで行うことが出来ました。

ガレキは走る

(全国キャラバン日程表)

6/18~21	東京都	練馬区	練馬区役所	ガレキパル・ソポ	(村井)
6/22	三重県	津市	県立女性センター	ソポ	(石井)
6/23	愛知県	名古屋市	YWCA会館	ワークショップ	(石井)
7/7	東京都	新宿区	早稲田大学	ソポ	(石井)
7/22~25	愛知県	名古屋市		ガレキパル・講演会	(石井)
7/27~28	福岡県	福岡市	福岡市社協	ガレキパル・ソポ	(石井)
8/9~11	神奈川県	小田原市	まるたの森	ガレキパル・ソポ	(村井・石井)
8/16	兵庫県	姫路市	大手前公園	ガレキパル・ソポ	
8/30~9/1	愛知県	名古屋市	グランド・会場	ガレキパル・ソポ	(村井・石井・澤田・鈴木・山田)

イベント情報

★週末ボラ

6/22・29(土) 13:00~18:00 西神第7仮設住宅

集合: 13:00 西神中央駅

問い合わせ: 078-795-6499 携帯080-121-9709 東條

◆フェスタIN湊川 障害者支援フリーマーケット
8/4(日) 10:00~17:00 湊川公園(神戸市兵庫区)
*スタッフ、出店参加募集中!!
問い合わせ: 078-682-8278 (FAX 078-682-8279)
「青い空★KOBÉ」MacDol内 元西 正己

◆アジアタウンの問い合わせ先の訂正
神戸アジアタウン推進協議会
078-737-5544

情報コーナー

◆物資下さい!

衣類は不可。日用品、茶話会用品等がほしいです。

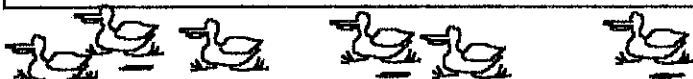
問い合わせ・送り先: 神戸市須磨区白川台7-9-14 有光宅

*送る前にご一報下さい。030-672-0020

◆兵庫県ボランティアセンター

ボランティアや社会福祉全般に関する本や報告書が約100冊あります。閲覧自由。ご利用下さい。

問い合わせ: 078-579-3304 兵庫県ボランティアセンター



< 仮設は今... >

大阪編

大阪市の北の端、淀川区には3ヶ所の仮設住宅があります。東三国、豊南、十八条。

東三国の仮設住宅は大阪市内の被災者用で、地下鉄東三国駅から徒歩3分。一家族、一家族と仮設住宅を離れ、今はずいぶんと少なくなっていました。また豊南の仮設住宅は、豊中側にある淀川区の飛び地に、大阪府下の被災者（特に豊中市）用に137戸建てられています（現在住居数127戸）。

そして十八条仮設住宅は神崎川のほとり、化学工場と住宅地の間にあった野球グラウンドに404戸建てられ、現在でも約270戸の家族が生活しています。ここは大阪市、尼崎市、西宮市、神戸市と各地で被災した0歳～95歳までの被災者の混合であり、しかも大阪府の建てた住宅と大阪市の建てた住宅とが混在し、全てに混合した仮設住宅なのです。

多くの問題を抱えながら、1年5ヶ月の時間が流れ、非日常であった仮設住宅の生活が、いつのまにか日常性へと変化を始めています。子どもたちは仮設住宅の敷地を自分たちの庭とし、日々隣の住宅から隣の住宅へと歩き歩いています。また大人も隣近所の付き合いを広げ、「仮設住宅での生活のやり方」を築きつつあります。しかし、やはり非日常性の中に閉じ困ってしまっている人々も今だ多く残っています。先日、十八条仮設住宅で独居の方が救急車で病院に運ばれ、病院で亡くなりました。自治会の「プライベートを守るために閉じこもりの人を外へ呼びだし、個別訪問はしない」活動形態では対応できない状況を知り、「個別訪問とかねあわせた閉じこもりの人々」への対応の必要性を教えられました。幸い、市の保健所を通して看護婦さんボランティアが6月26日より月2回個別訪問をしながら活動をしていただける事になり、第一歩を踏み出せました。

今後の課題としては東三国仮設住宅で見られるような、過疎化していき仮設住宅に残されていく住居者を、ボランティアだけでなく仮設住宅を抱える地域の住民・自治会等がどの様にカバーして活動していけるかということが出て来ると思います。私は「対」仮設自治会になりがちな活動を、「対」仮設住居者各々に切り替える重要な時期に来たのではと思います。

あ・ひるの会 瀬川 雅之

続・「継続は力なり」

西川 幸夫（寄稿）

前回までの話・・・

飲み終わってお金を払おうとすると、お金を持っていないことに気づいたのです。ご主人に言うと、「お互い様やから今度来店したときに代金を頂く」と言って無料にしてくださいました。厚く礼を言って表に出ようとしたら、ご主人が私を呼び止めたのです。

なんとご主人は、私が靴下をはいていないのに気づいて、單足を2足くれたのです。この時は本当に感謝いたしましたので、その場で一足はき、未だに後の一足は感謝のしるしとして大事にとってあります。

それから区役所の上まで行こうとすると、火事で高架から北は通行止めで行けないと言われました。けれど姉さんや兄さん住んでいるのでとても心配で、私1人で姉の家に向かいました。途中、窓から炎が熱風を吹き出していたりし、洋ダンスで打った痛む左足を抱えながら命からがらそこから逃げ出したりもしました。いつも20分程の道もこの時は1時間ほどもかかってしまい、姉さんの家には半日がかりでたどり着きました。そして夜露がしのげるのにほっとしたものです。

震災の後、後遺症に悩みました。足が痛くて、それを自分自身の頭の中ではわかっているのにイライラが募り、姉さんや兄さんにきつくあたったりしました。暗い日々が続き、本当につらい毎日でした。今思えば姉さんや兄さんに甘えがあったと思います。けれど、そんな足も区役所でやっていた仮設診療所で診察をしてもらったら、打撲ということで軽く済んでほっといたしました。

そんな私に去年の9月頃、兄さんがSVA（曹洞宗国際ボランティア会）を紹介してくれ、お世話になり始めました。月日の経つのも早いもので、今は月・水・金と週3回も通うようになりました。SVAに行くときに、兄さんに「ボランティアしてやるというような思い上がった気持ちで行くのなら最初から行くな」と言われました。しかし実際ボランティアをする中で感じますが、私自身がボランティアをさせていただいているようなものでした。

SVAに来て半年になりました。SVAに来ていた泊まりのボランティアの方や通いのボランティアの方とも友達になり、文通するようになりました。仮設の方も顔見知りになり、大勢のお友達もでき、お話も多く致しました。

今の私のモットーは「継続は力なり」です。SVAが続く限り私の体力が持つ限り、耳が遠くなっても目が不自由になっても、できるだけ皆様と共に行動をしたいです。そしていつもどんなときも、笑顔で接していきたいと思っています。今の私の望みは、私と同年代の方がボランティアに参加していただきたいということです。

平成7年1月17日 阪神大震災で無念にも亡くなられた方々の冥福を祈り、再び災害のないようにお祈りいたします。

合掌

ハビタット2（国連居住会議）から（その1）

6月3日から14日まで行われ、うちの代表の村井君も約1ヶ月ほど消えているのですが、先に帰ってこられた連絡会議の松村さんが簡単にまとめて下さいました。くわーくはもうすぐ帰ってくる村井君に乞うご期待！！

18号でお知らせしたように、トルコのイスタンブールで開催されたハビタット2（国連居住会議）と、それに並行して開催された「NGOフォーラム'96」に参加してきました。イスタンブールに何をしに行ってきたかというところ……

1. 被災地神戸の現状を世界に訴え、同じような取り組みをしてきている各国のNGOと連帯し、それぞれの経験を共有し、神戸の明日につなげる。
2. 日本政府に対し復興政策の第一に居住の問題を解決することを訴える署名をフォーラム参加者から集め、日本政府代表に提出（381名の署名が集まりました）。
3. イスタンブールで採択される「ハビタット・アジェンダ」の内容に「居住権」や「防災と復興」の行動計画の項目に仮設住宅の建設だけでなく、具体的に個人補償や生活支援、住宅ローンなどの言葉を入れるよう、各国政府代表にはたらきかける。

とはいうものの、村井、松村ともこのような国際会議は生まれてはじめて。膨大な英語の資料を片手にこちらの会場、あちらの会場と右往左往する毎日でした。

展示ブースでは神戸の震災直後と現在を対比させた写真や、仮設住宅の現状を訴える写真をパネルにして展示し、政府の取り組みがハードウェア面ばかり優先していることを訴え、署名を集めていました。けれど実際のところ、水道・電気も完備で他のスラムに比べてきれいに見える写真に、「こんなのは〇〇に比べたら恵まれている！」などと言われたらどうしようかと心配していました。しかしブースを訪れた人達の多くは、やはり居住の問題に関心が高い人が多かったためか、私のつたない英語の説明にいちいち頷いて「日本政府の対応は？」とか「どれくらいの期間この仮設に住んでいるのか？」などいろいろな質問し、「はやく復興できることを願っているよ」と、快く署名して下さいました。神戸の震災は世界的にも大事件として各地で報道されたようで、ほとんどの人が「神戸」を知っていました。（阪神・淡路の知名度は低いようです。阪神地区、淡路の方、ごめんなさい！）中にはとくに復興していると思っていて、現状を聞いてびっくりされた方もいました。

私達は今回の震災であらためて居住権やコミュニティの大切さに気がついたわけですが、このような世界の舞台にでてみると、災害だけでなく人種差別や戦争などにより強制移住を余儀なくされている地域もたくさんあり、いろんな所でたくさんの人達が居住権について取り組んでできていることがわかり、神戸から世界へ視野を広げることの大切さも学んできました。

阪神大震災地元NGO救援連絡会議

松村文子

事務局から

イベント情報等、掲載できるものがありましたら、どしどしおしらせください。

全国キャラバンをして下さった方、参加して下さい下さった方、キャラバンに関するご感想・ご意見下さい。今後の参考にしていきたいと思っています。また、じゃりみちにも載せていきたいと思っていますのでよろしくお願ひします！！

じゃりの一口めも

さて梅雨の時期になってしまいました。この時期は湿気や湿気の冷えから来る痛みやむくみが多くなります。こんな時は体内の水分の滞留を解消して乾・温の性質を持つハーブや食物で、湿・冷への偏りをコントロールすると元気が出るようです。またおひさまの下でゴロゴロするのも良いようです。

◆腰痛・筋違い

利尿作用のあるゼンゴバリーというハーブの精油を、水200ccに対して2～3滴ほど入れてよく振り混ぜ、コットンやガーゼにしみこませて痛いところにあてます。ときどき新たにしみこませてくり返し湿布します。ハーブを使わなくても、足浴も効果的です。

